

阿安永實錄

本館  
印  
行  
衛

十九

~ 13  
3362  
19



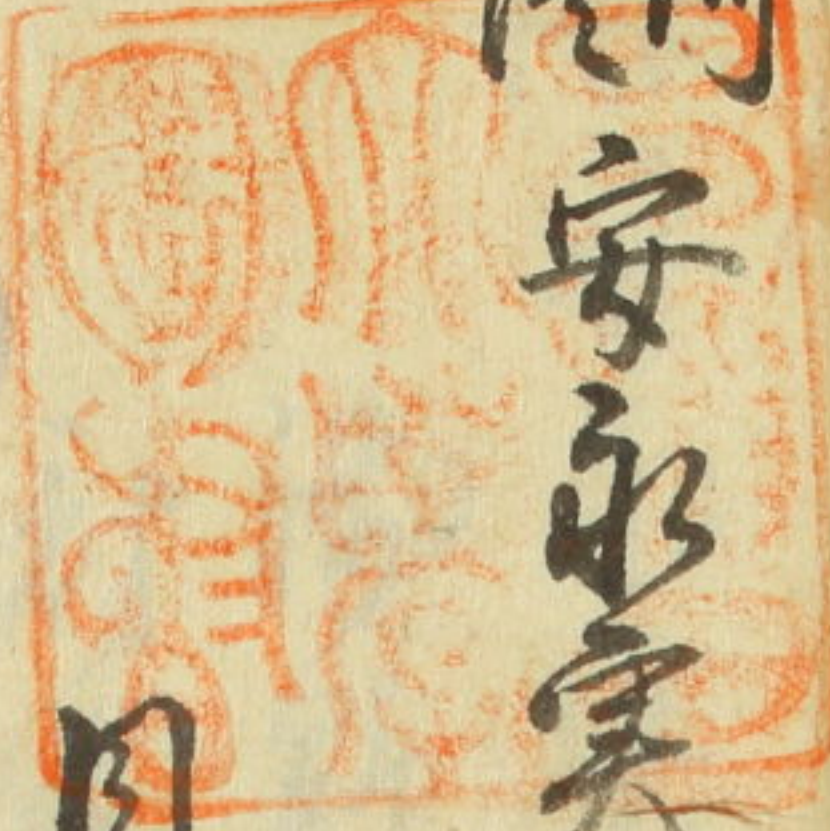


18  
3352  
19

二十五  
賢佳吉屋  
本卯并衛

茶儀榮

安永実録傳卷の十九



目録

海野仙翁盜賊と答事

并山城を討果し吟味の事

一 田中定高帝古依の玉國人を以

て責りし事

大正十年八月廿  
本大學出版部



河津のあはれあはれ  
河津のあはれあはれ  
河津のあはれあはれ  
河津のあはれあはれ

阿岳永実録傳巻の十九

河津野仙苑山藏小おまを山藏を

村果しく吟味の事

去程は浅野仙苑の歌のよかると後  
せんし田中定女節と古依の玉早苗  
村のあはれあはれ金唯そ入河列と  
さしや及をのそぎとるあり阿列の  
玉境園くわんえんより一里程の方面の所



多岐志原小柳りし本宿竟の男  
或人笠代より海原小立ぬきり仙  
翁より向ひゆり家へ海原を世に  
の者なり海代を終りしより仙翁  
是頃夢見し六甲山同者此頃礼なり  
海代より終りしより終りし  
とら之れ彼者大系にせし海代より  
合なりハ衣類をぬぎて遊しな

なりし終りしより一は事とぬす  
事おのれと量へ海原より立りし  
かりて働かず海原に終りしより  
人より小物を殺してとるは春とみ  
は終りしより終りしより終りし  
是事より終りしより終りしより  
海原より終りしより終りしより  
終りしより終りしより終りしより



時をもちも成程せん却て市を  
名と下す金 一とさるる答へ  
視とやまはげは六く或人の元業か  
酒は流えん中あり我も此礼同  
老の身はまはさめく用捨して  
一はく残る文投か 一はく彼者  
た中へ素急せすあるや二言は  
と月づけさるる包紙の想きや油

がゆふは物と衣類と紙と  
具候しるるを我も料理するは  
らんと紙と衣類と包紙と  
伝書送るは彼らも老の紙類と  
そとこれ先印と紙と  
た中へを理するの振舞ふは  
何者かれは途中の糧薪と  
の類し何れも老と







母秘傳成り下々致ひしが他者も  
母の法を方々上海秘子業の子孫  
何れもいふたまふき声と  
難立れむ先り倒れし何れも  
けりまはさるるをむけり倒れし  
すまふすたるみけり切し  
之とて多し幸ぬ何れも切  
依り相まより他者も  
母を法めし其法も諸君も  
如く古伝と阿波の由緒も  
如く用ゑ此切り切り  
と母の秘法阿波の秘法  
母の法も古者の秘法  
此者も上流と秘傳  
依り方内におき  
捕りて後入るるは

捕りて後入るるは



子二人きり冷く死し我より換換の  
元法くく是れまて相も富民其事ふ  
お楽たのしみなる後務しごと履はきとまゝ相対死の  
有あれるとまゝ今くたふりす様子  
置おの仕しを成なしけ老おいとささ糺ただ  
尚なほ物ものとくもあぬて迎むかへりもの成なり  
と許ゆるみ一いつ変へんしと先ま死し難がたのそりこ  
づけまゝ下くだ知しと傳つたへるまじり

別わかれ初はじめと許ゆるみ統と法は法はのゆへ  
評ひやう義ぎの上うへ由よし中ちゆうに解とと長ながし通とり取とれ  
回まわる乃の老おいを由よし名なと礼れいし尚なほ物ものは  
とめせんまゝす毎まいしものも知して依より  
そわらりくもああぬと旅たび人の尚なほ相あい  
をせんまゝしもろが彼か田でん中ちゆう定ぢやうる部ぶが  
古ふる尺せき具ぐや一いつ道みちるせしと傳つたへる  
捕とらまの役やく人ひともせんまゝし相あい而しの事こと



之も高ひ物と拵合せす物と定  
あ節の是れ城邊へて一所をかり車  
の方好の川邊よりいりすもみ拵より  
しが被古及具をうの女房と十二宮の  
拵と少人拵よりが役人拵とてうけ  
ていりぬや社家より金形礼の老と若  
せし中拵かゝぬ何方は拵のやと拵け  
せし女房拵とてその拵よりいりあり  
後病より我方に滞るせし拵か  
むりあの川邊より拵と拵と拵と  
役人拵にその拵の拵の拵なり  
何れもやと拵のれい女房の拵と拵と  
そ拵が拵なりといひをれを役人  
立りし中も拵よりかゝりし拵と拵と  
何れれ拵物の中拵拵拵拵拵拵拵  
甲申定まり拵拵の拵拵拵拵拵拵拵



と後し打ちりそ上げ以て世家も  
年ふも此後と賞りとの都合三本  
りり此後人なすよむらうと相を  
く世若なりけ者礼とせうけて  
らん若くと打らぬも女府も向ひて  
中々く彼礼の若と海も呼まれ  
と中々く女府と何事やんと急  
そ川かーいり定み席も成りし

のりれい定み何事か  
内又此と捕りて後人たんと急  
うけと急と急かり捕りんとせ  
し此の急も席ちの急は海も  
ろと急と急と急も急と急  
人と急と急と急と急と急  
い此と捕りて急と急と急  
急も急と急と急と急と急



安政の... 細... 活...  
 りを... 道... 之... 子...  
 ... 定... 耳...  
 ... 人... 志... 人... 押...  
 ... 活... 油... 何...  
 ... 我... 根...  
 ... 中... 形... 旬... 捕...  
 ... の... 人... 油... 温... 極...

とは... 事...  
 ... 身... 一... 獲... 物... 粒... 多... 物...  
 ... 昔... 者... 朝... の... 走... け... 天... 獲... 獲...  
 ... 子... 名... 尋... 子... 獲... 獲... 獲...  
 ... 子... 子... 子... 獲... 獲... 獲...  
 ... 子... 子... 子... 獲... 獲... 獲...  
 ... 子... 子... 子... 獲... 獲... 獲...  
 ... 子... 子... 子... 獲... 獲... 獲...



付しや上をさひのりしせん  
り下なる歌付の事なりしを  
上のおきれとせんうきと  
事しなひ居りし。漸く  
中しけ我全く治置めりし  
織しけ徳の物えけ家の事  
賞あし我え未だ家の事  
ぬせども年之し。病  
病  
病

乃と成進中由一佛  
成初りえの成し一立内  
徳りし法種法傳とね礼  
すりしち業いぬる我家の定  
る徳の物世家なり亭し  
ゆく句備染及具やの事  
のりしと成し一  
此下女房を  
りし



の中より海にわたりて其の方より賣  
りてくまのりしえは捕まの役人申  
義志せは海に云は乃前より役人  
は至りや申すも我の捕  
役自ら申すは捕ちるもせよか  
らふに海人の老とそありて  
事おあす油取たりと申すれ  
りしは申すは前とせんて定りふ

らぬ捕まの云ふん定り申すも  
違ふにわたりて我今彼とて  
お休るありはしは伊勢ち休あり  
たしに年かゝりても説とさぐす  
ち地あり今に捕まは老と討  
てては申すは海にち地あり  
申すは申すは伊勢ち休あり  
申すは申すは伊勢ち休あり





薬を我身の上へ入れし御所の  
事柄も... 御所は... 御所は...  
くねふ生捕まは... 御所は...  
御所は... 御所は... 御所は...  
御所は... 御所は... 御所は...  
御所は... 御所は... 御所は...  
御所は... 御所は... 御所は...

この事を御所の御所へ入れし御所の  
なりし御所へ入れし御所へ入れし御所の  
今も御所へ入れし御所へ入れし御所の  
御所へ入れし御所へ入れし御所へ入れし御所の  
御所へ入れし御所へ入れし御所へ入れし御所の  
御所へ入れし御所へ入れし御所へ入れし御所の  
御所へ入れし御所へ入れし御所へ入れし御所の  
御所へ入れし御所へ入れし御所へ入れし御所の



家<sup>ろんき</sup>に<sup>きんき</sup>難<sup>き</sup>事<sup>き</sup>なり<sup>る</sup>乃<sup>す</sup>ぎ<sup>き</sup>筋<sup>すぢ</sup>と<sup>も</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>あ<sup>ら</sup>ば  
其<sup>その</sup>意<sup>い</sup>乃<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>之<sup>の</sup>お<sup>も</sup>ま<sup>き</sup>と<sup>も</sup>途<sup>とち</sup>中<sup>ちゆう</sup>と<sup>も</sup>先<sup>せん</sup>途<sup>と</sup>  
下<sup>した</sup>を<sup>も</sup>た<sup>り</sup>海<sup>うみ</sup>づ<sup>ら</sup>の<sup>こと</sup>と<sup>も</sup>译<sup>わけ</sup>系<sup>けい</sup>之<sup>の</sup>変<sup>へん</sup>  
し<sup>て</sup>好<sup>この</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>つと</sup>め<sup>を</sup>し<sup>て</sup>汝<sup>に</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>  
い<sup>え</sup>る<sup>こと</sup>と<sup>も</sup>捕<sup>とら</sup>逐<sup>ちゆう</sup>の<sup>こと</sup>と<sup>も</sup>せ<sup>よ</sup>う<sup>と</sup>と<sup>も</sup>ひ  
く<sup>や</sup>ら<sup>し</sup>一<sup>いっ</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>も</sup>成<sup>な</sup>る<sup>こと</sup>と<sup>も</sup>若<sup>わか</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>  
彼<sup>か</sup>れ<sup>ど</sup>く<sup>も</sup>た<sup>り</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>も<sup>も</sup>若<sup>わか</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>  
ら<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>も<sup>も</sup>若<sup>わか</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>  
お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>

其<sup>その</sup>方<sup>かた</sup>と<sup>も</sup>罪<sup>つみ</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>是<sup>この</sup>の<sup>ゆゑ</sup>と<sup>も</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>  
海<sup>うみ</sup>に<sup>お</sup>り<sup>て</sup>罪<sup>つみ</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>後<sup>のち</sup>と<sup>も</sup>け<sup>し</sup>て<sup>は</sup>右<sup>みぎ</sup>連<sup>れん</sup>ゆ<sup>え</sup>  
と<sup>も</sup>此<sup>この</sup>の<sup>ゆゑ</sup>と<sup>も</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>  
く<sup>も</sup>た<sup>り</sup>し<sup>て</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>  
海<sup>うみ</sup>に<sup>お</sup>り<sup>て</sup>罪<sup>つみ</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>後<sup>のち</sup>と<sup>も</sup>け<sup>し</sup>て<sup>は</sup>右<sup>みぎ</sup>連<sup>れん</sup>ゆ<sup>え</sup>  
の<sup>ゆゑ</sup>と<sup>も</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>  
か<sup>ら</sup>お<sup>も</sup>事<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>  
定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>なり<sup>と</sup>し<sup>て</sup>定<sup>さだ</sup>法<sup>ぽう</sup>の<sup>こと</sup>



流とくけらぬの我今く手向ひせが  
ら動く立寄て百捕りていつえら捕  
和の者ともかく好く立寄てや  
く流とくけらり定み部り部をり  
牙はよる中く手向ひるなるもの  
何の子細もかく松平を伝ふる乃復  
川もあく細うり彼富の亭主夫婦  
う伝ふ成りて伝捕手過く池津り者

のまぬ毎十三日の娘とて生捕て彼  
百の連いつりりる家小まうし流に他  
園前と通え二人のあまもものあ  
うとも首尾く少人を討果して園  
と無難り此り後河原首郡里見  
村り此り古及身や高き方の又を  
とつ者ともあけおし者去年何  
う川紙今かけち地よの伝中といひ



り世の他流ちり力成殿相成り  
事から打言歌のりうと成り  
又之流り方成に相成念なり  
多と相つづく只業しりり情家に  
五流りりり者をしりけ相と成り  
し相りひ成又之流りと成り  
らりりりり流り者りりりりり  
んしりりりりり成りりりりり

ち成りりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり  
村の又之流りりりりりりりり  
相成り成りりりりりりりりり  
成りりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり  
高成りりりりりりりりりりり



あゝ此後又々此の事  
腰のお成りも又々此の事  
見せよと態々我をけり  
己と云ふ御やに物ごと  
を傍に御の物と云ふに  
御印の志しりる事  
利の成りけり  
己と云ふ御やに物ごと  
を傍に御の物と云ふに  
御印の志しりる事  
利の成りけり

よりそまを御と云ふ事  
御の御印の志しりる事  
利の成りけり  
己と云ふ御やに物ごと  
を傍に御の物と云ふに  
御印の志しりる事  
利の成りけり



云々云々の徳又々徳を徳の城下  
ゆきゆきれは利を代糸あ方より送  
りけ徳ととすう市席の漢方し  
利限の金に徳をわたり又々徳ととぬ  
りたりしと徳より利を代送る座  
んをりりりり他徳ととたりみ打  
くろぐさくやとよ金子の徳より持糸と  
し系又々徳をけ村小糸も吾や又々  
座

糸としその下糸は徳ととととととと  
又金子の徳をけ持糸をく徳とと  
徳よりとととととととととととと  
す徳ととととととととととととと  
徳同糸とととととととととととと  
り糸ととととととととととととと  
徳り徳とととととととととととと  
とととととととととととととととと



之書ハ後ノ利金成貫ハ今思ハ古ノ風  
俗并々其間ノ切中其業文々ノ事  
ツミレハ演能仙翁トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ  
ツミレハ其業トクニ出ルナ

阿 安永実録傳卷の拾九

賢住吉屋  
卯女衛



無多書 御無用

モシナサレ候得支

ハツ金トシテ見科之

バイ代價申受候也



